

青野 茂昭 先生（あおの しげあき）

- 所属・職位：国土舘大学 体育学部 スポーツ医科学科 教授
- 学位：博士（医学）
- 兼担：国土舘大学大学院 救急システム研究科 救急システム専攻
- 専門分野：消化器病学、救急救命士が病院前・災害時に実施する超音波検査の有用性に関する研究



国土舘大学体育学部スポーツ医科学科教授であり、2025年4月からは救急システム研究科救急システム専攻教授も務めている。専門は消化器内科学で、救急救命士による病院前・災害時の超音波検査の有用性に関する研究に取り組んでいる。防衛医科大学校で博士（医学）を取得し、2024年4月に国土舘大学体育学部スポーツ医科学科教授に着任した。前職では、自衛隊中央病院をはじめとする自衛隊病院で臨床に従事し、フィリピンの台風高潮被害に対する国際緊急援助隊にも参加した。

加來 浩器 先生（かく こうき）

本職：防衛医科大学校 防衛医学研究センター長（広域感染症疫学・制御研究部門 教授）

- 学位・専門：医学博士、感染症疫学、感染制御学、熱帯医学
- 主な役職・委員：
 - 厚生労働省 新型コロナウイルス感染症クラスター対策班 メンバー
 - 東京iCDC（東京感染症対策センター）専門家ボード 人材育成チーム メンバー
 - 日本環境感染学会 東京2020大会対策委員会 委員長／評議員・災害時感染制御検討委員会
 - 日本臨床微生物学会 災害対策委員会



加來浩器先生は、防衛医科大学校 防衛医学研究センター長であり、広域感染症疫学・制御研究部門教授を務めている。専門は感染症疫学、感染制御学、熱帯医学で、感染症の実地疫学調査や災害時の感染症対策に取り組んでいる。1988年に防衛医科大学校を卒業後、陸上自衛隊で医官として勤務し、ホンジュラスやインドネシア・スマトラ島での国際緊急援助隊活動、東日本大震災時の岩手県での感染制御支援など、国内外の現場で感染症対策に従事してきた。COVID-19対応では、厚生労働省の新型コロナウイルス感染症クラスター対策班や東京iCDC専門家ボードの人材育成チームに参加し、日本環境感染学会の東京2020大会対策委員会委員長も務めた。

長谷川 学 先生（はせがわ まなぶ）

- 所属：京都大学大学院医学研究科、ヘルスセキュリティセンター健康危機管理対応力開発分野 教授
- 前職：厚生労働省医政局研究開発政策課長、京都府健康福祉部長



長谷川学先生は、京都大学大学院医学研究科ヘルスセキュリティセンター健康危機管理対応力開発分野の教授である。健康危機管理、災害医療、感染症対策、救急医療トリアージ、危機管理倫理・法令などをテーマに、研究と教育に取り組んでいる。2026年5月1日に着任し、「研究と訓練を通じて、次の危機に備える」を理念に、エビデンスの集約、指揮調整、トリアージ、資源配分、訓練手法の標準化などを通じて実践知の体系化と人材育成を推進している。

佐々木 広一 先生（ささき こういち）

- 所属・職位：広島国際大学 保健医療学部 救急救命学科 教授
- 専門分野：救急業務、救急行政
- 研究テーマ：救急隊の感染防止対策、救急行政



広島国際大学保健医療学部救急救命学科の教授である。専門は救急業務および救急行政で、救急隊の感染防止対策をはじめ、病院前救護の現場課題に関する研究に取り組んでいる。研究者要覧では、救急隊の感染防止対策と救急行政が研究テーマとして挙げられており、所属学会は日本臨床救急医学会である。学位は博士（医療工学）で、公共政策学修士と救急救命士の資格も有している。

木下 学 先生（きのした まなぶ）

- 所属・職位：防衛医科大学校 医学教育部医学科、免疫・微生物学講座 教授
- 学位・資格：医学博士・医師
- 専門分野：侵襲免疫学、肝臓免疫学、救急医学（敗血症・出血性ショック）
人工血液
- 主な役職：日本ショック学会 理事長、日本エンドトキシン自然免疫研究会 監事



防衛医科大学校 医学教育部医学科 免疫・微生物学講座の教授である。1988年に防衛医科大学校を卒業後、航空自衛隊の外科医官として臨床に従事し、大学院での消化器病学専攻、スタンフォード大学外科への留学、自衛隊岐阜病院外科科長、航空自衛隊第1航空団衛生隊長、防衛医学研究センター外傷研究部門などを経て、2021年に同講座教授に就任した。研究分野は侵襲免疫学、肝臓免疫学、エンドトキシン、敗血症性ショック、人工血液、出血性ショックで、日本ショック学会理事長、日本エンドトキシン自然免疫研究会監事を務めている。